



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users/2/kansinko/>
パスワード: kansin

平成21年11月

事務局 〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療センター戸山病院臨床検査部内
発行者 三浦隆雄
編集委員 渡司博幸・峰岸正明・久間修平
印刷所 東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第37回 国臨協関信支部 学会・総会 開催される



支 部 長 挨 拶

NHO 東京病院 三 浦 隆 雄

支部長四期目と少し長くなりましたが、現状否定の精神で前向きな一歩を踏み出すよう会務を遂行してまいりますので、新役員一同と支部活動に何卒ご支援ご協力のほどお願いいたします。

去る9月5日、新型インフルエンザ流行拡大の憂慮と政権交代の話題で揺れるなか、多数のご参加（364名）のおかげを持ちまして、支部活動の一大イベントである支部学会・定期総会を大盛会裏に終えることができました。ここ数年の学会参加者と一般演題数の増加は、関信ブロック臨床検査専門職をはじめ技師長協議会、各地区会との連携の大きな成果であると思います。皆様のご支援とご理解に深く感謝申し上げます。

定期総会では、関信支部が発足した昭和48年以來の会期見直しと支部学会と総会の同日開催を分離する議案が承認されました。これにより、今期は次年度からの新会期に備えての短い移行期間（8ヶ月間）となりました。つきましては定例化していた地区代表者会議、定期総会など会務の開催時期に変更が生じますのでご理解をお願いいたします。

移行期間後の新たな会期（平成22年度）からは、以下のようなメリットがあります。①会期・会計年度と実質年度との大きなズレがなくなります。②4月採用者と3月末退職会員の会費納入が理解しやすくなります。③支部学会は、余裕のある日程で企画できるようになります。④一年遅れの学会会計報告は、今後一般会計報告に組み入れ会計監査により透明化できます。…ご承知置きお願いいたします。

今後とも関信支部は、臨床検査の質的向上のため、検査部門の活性化と人材育成のため、多くの会員が交流し情報交換できる場を設定してまいります。会員の皆様におかれましては、職場では何かと求められることの多い多忙な日々とは存じますが、自己研鑽とストレス解消の場として身近な支部活動を大いにご活用され、それぞれの目標達成のためにお役立ていただければと思います。

皆様のご健勝とご発展を心より祈念いたします。



新役員 役務分担

支 部 長		
（総 括）	三浦 隆雄	NHO 東京病院
副支部長		
（総括補佐学術）	吉田 和浩	NHO 災害医療センター
副支部長		
（総括補佐広報）	渡司 博幸	NHO 霞ヶ浦医療センター
事務局長		
（事 務 局）	林 亮	NHO 横浜医療センター
理 事		
（事務局総務）	北沢 敏男	国立国際医療センター戸山病院
（事務局総務）	山田 晶	NHO 東京医療センター
（事務局総務）	山崎 茂樹	国立成育医療センター
（会 計）	沼田 正男	NHO 埼玉病院
（学 術）	川村 公彦	国立がんセンター東病院
（学 術）	会田 春光	NHO 千葉東病院
（学 術）	橋本 洋二	国立がんセンター中央病院
（広 報）	峰岸 正明	NHO 相模原病院
（広 報）	久間 修平	NHO 栃木病院
会計監査	小松 和典	NHO 長野病院
会計監査	川畑 久	NHO 甲府病院

第37回定期総会議事録（要旨）

日時：平成21年9月5日（土）17:10～17:40

場所：国立国際医療センター戸山病院 国際協力局5階会議室

1. 開会の辞 林事務局長

2. 議長選出

- 1) 議長 塩澤 勇治（国立がんセンター中央病院）
- 2) 書記 益田 泰蔵（NHO 千葉医療センター）
山田 晶（NHO 東京医療センター）

3. 支部長挨拶

平成20年度活動内容および平成21年度事業方針案についてご審議よろしくをお願いします。

4. 審議事項

- 1) 平成20年度経過報告について（抄録集付定期総会議案書参照）

林事務局長から総括および事務局経過報告、各部より経過報告が行われた。

渉外部 峰岸理事

学術部 川村理事

広報部 深澤理事

- 2) 平成20年度会計報告（別紙配付資料参照）

沼田理事より報告

- 3) 平成20年度会計監査報告

川畑 久（NHO 甲府病院）会計監査より報告

平成21年8月14日（金）国立国際医療センター戸山病院において下記の通り会計監査を行いましたので報告いたします。

①監査内容：平成20年度一般会計

（平成20年9月1日～平成21年8月31日）

②講評：一般会計の予算執行は適切であり、収入支出台帳をはじめ帳簿整理、証拠書類、貯金通帳、現金管理等すべて適正に行われていることを認めます。

【質疑応答】

〈フロアーからの質疑なし〉

〈平成20年度経過報告、平成20年度会計報告、平成20年度会計監査報告について拍手多数で承認された〉

塩澤議長：第3号議案が承認されますと、第1号議案と第2号議案に変更が生じますので、第3号議案から審議させて頂きます。

- 4) 第3号議案

三浦支部長より会期見直しと支部学会・定期総会の分離に関わる国臨協関信支部規約の改正についての提案

- 5) 第1号議案（別紙配付資料参照）

平成21年度事業方針（案）について各部より提案

総括 林事務局長

事務局 北沢理事

学術部 川村理事

広報部 久間理事

- 6) 第2号議案（別紙配付資料参照）

沼田理事より平成21年度予算（案）について提案

【質疑応答】

〈フロアーからの質疑なし〉

〈第1号議案、第2号議案、第3号議案について拍手多数で承認された〉

- 7) 第36回国臨協関信支部学会会計報告

北沢理事より報告（会場でプロジェクターにて報告）

【質疑応答】

質問：岩下 淨明（NHO 埼玉病院）

収入の部の広告収入の計算が違っている。

回答：北沢理事

30,000円×33社ではなく20,000円×33社の誤記です。

合計金額に変更はありません。

〈第36回国臨協関信支部学会会計報告について拍手多数で承認された〉

5. 役員選出および新旧役員挨拶

名賀 秀己（NHO 下志津病院）役員推薦委員長より役員候補者が発表された。

支部長

三浦 隆雄 NHO 東京病院 （留任）

副支部長

吉田 和浩 NHO 災害医療センター （留任）

渡司 博幸 NHO 霞ヶ浦医療センター （留任）

事務局長

林 亮 NHO 横浜医療センター （留任）

常任理事

峰岸 正明 NHO 相模原病院 （留任）

川村 公彦 国立がんセンター東病院 （留任）

久間 修平 NHO 栃木病院 （留任）

会田 春光 NHO 千葉東病院 （留任）

北沢 敏男 国立国際医療センター戸山病院 （留任）

山田 晶 NHO 東京医療センター （新任）

沼田 正男 NHO 埼玉病院 （留任）

山崎 茂樹 国立成育医療センター （留任）

橋本 洋二 国立がんセンター中央病院 （新任）

会計監査

小松 和典 NHO 長野病院 （留任）

川畑 久 NHO 甲府病院 （留任）

役員推薦委員

名賀 秀己 NHO 下志津病院 （留任）

小林 和博 国立国際医療センター戸山病院 （留任）

原田 哲志 NHO 箱根病院 （留任）

〈拍手多数で承認された〉



・退任役員挨拶

深澤理事

2年間役員を務めさせて頂きました。広報を担当させて頂き、皆様には記事や報告をお寄せ頂き多大なご協力をいただきました。無事務められたのも皆様のおかげと感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

益田理事

私は3年間理事を務めさせて頂きました。会計、学術、総務と経験させて頂き、各地区会にも参加勉強させて頂きました。また、会務を行うにあたり施設の方々にはご協力頂き本当にありがとうございました。

・新任役員挨拶

三浦支部長

次年度は8ヶ月間の短い期間になりますが、新しいメンバーで頑張っていきます。皆様のご協力のほどよろしくお願い致します。

6. 議長、書記解任

7. 閉会の辞 林事務局長

議事録作成 益田泰蔵・山田晶

第37回関信支部学会・総会を終えて

平成21年9月5日（土）に第37回国立病院臨床検査技師協会関信支部学会・総会を国立国際医療センター戸山病院にて開催いたしました。学会のメインテーマを「原点に立ち返り未来を考える」といたしました。厳しい医療情勢の中もう一度、臨床検査技師として、臨床検査の原点に返り今後どのように臨床検査の未来を切り開いていくか、会員皆様と再度考える機会ととらえ、学会開催に向けて役員一同準備に取り組んでまいりました。

学会当日の一般演題はここ数年間の中で最も多く60演題の発表でした。それぞれの会場で、日頃の研鑽が伺える充実した内容の発表が行われ、大勢の会員で会場は埋め尽くされていました。一般演題終了後には学会セミナーも開催いたしました。学会テーマにあわせ「チーム医療における検査技師の役割」・「検体検査の現状と展望」と題し開催致しました。

また、技師長会総会は会場を学会会場から戸山サンライズに移しての同日開催となりました。

特別講演は自治医科大学の櫻林郁之介先生に「特定健診とその役割」と題してメタボリックシンドロームや地域医療に関することについての内容でご講演をいただきました。

学会セレモニーには、来賓として国立病院機構関東信越ブロック事務所から加藤医療課長と永井臨床検査専門職、国立病院機構本部医療部医療課より奥田臨床

NHO霞ヶ浦医療センター 副支部長 渡 司 博 幸

検査専門職にご臨席を賜りご挨拶をいただきました。（当日はご両人の代理として永井臨床検査専門職が代読されました）さらに、国立病院臨床検査技師協会からは大貫会長にもご臨席を賜りご挨拶をいただきました。（当日は代理として宮原副会長が出席し代読されました）

学会学術奨励賞と学会特別賞について市川一三選考委員長より発表がありそれぞれ各1演題が表彰されました。また、関信支部表彰は各地区会から推薦を受けた6名を表彰し、賞状と記念品を授与いたしました。

定期総会は、議長に塩澤勇治氏（国立がんセンター中央病院）を選出し、平成20年度経過報告・会計報告を行い監査報告が行われました。平成21年度事業方針（案）については先に、第3号議案（関信支部学会会期の見直しについて）が承認されたのちに、平成21年度事業方針（案）・会計予算（案）が提案され、全てに承認をいただきました。

最後に名賀役員推薦委員長より新役員が発表され承認をいただき総会は終了いたしました。

その後、会場を戸山サンライズに移し懇親会を開催し、終始和やかな雰囲気の中親睦と交流を深め盛会裏に終了することができました。

最後に、本学会の開催にあたりご協力を頂いた国立国際医療センター戸山病院・国際協力局の関係各位、学会運営にご協力を頂いた会員の皆様に心より感謝しお礼を申し上げます。



第37回国臨協関信支部学会・特別講演に参加して

国立療養所多磨全生園 中 野 正 直

平成21年9月5日（土）第37回国臨協関信支部学会の特別講演は、自治医科大学 櫻林郁之介先生をお招きし「特定健診における臨床検査技師の役割」の題でご講演を拝聴いたしましたので、要旨および感想を報告いたします。

まず、病院の現状、民間委譲の流れ、経営の厳格化の話から始まり、医療計画主要9事業による医療計画制度の見直しを通じた医療機能の分化連携の推進、そのためのがん対策推進基本計画の概要、旧大宮地区の病院連携について説明されました。特に、投薬注射処置の減少・乳がん治療剤の選択・糖尿病発生遺伝子を例にしたオーダーメイド医療の講義は興味深い話でした。

次にメタボリックシンドロームの話に移り、日本の8つの学会がまとめた基準、病態、増加の原因、メタボリックシンドローム診断基準のリスクファクター数と心血管イベント発生数、および、何故新しい特定健診制度、保健指導が導入されたか、保健指導対象者の選定と階層化の方法、積極的支援内容など細かい説明をされました。

特定健診により、医療保険者に求められる結果とは、健診実施率・保健指導実施率・メタボリックシンドロ-

ーム該当者予備軍減少率の達成状況により医療支援金を増減するという話は驚きとともに長続きするかなとも思いました。

健診の精度管理の在り方、健診項目の標準化、メタボリックシンドロームの治療にも例を挙げて述べられ興味深く拝聴いたしました。

さらにメタボリックシンドロームは未病ではないか（未病の定義は支部ニュース6月号参照）。日本未病システム学会では特定健診制度の精度管理実施や保健指導実施者として活躍してもらうため「未病専門指導師」制度を立ち上げ、日本臨床衛生検査技師会とも連携をとりながら進展させたいとの事でした。また、日本未病システム学会の認定用教科書は、未病学入門・未病医学臨床でいずれも学会監修です。この機会に購入し未病専門指導師にチャレンジしてはいかがでしょうか。講演終了後、5名の質疑があり盛会裏に特別講演は終了しました。

なお、櫻林先生は懇親会にも出席していただき楽しいひとときを過ごす事ができました。多忙の中ご講演いただいた櫻林先生に感謝するとともに、特別講演を企画した支部役員に感謝いたします。

第37回国臨協関信支部学会 学会学術奨励賞・学会特別賞選考委員会報告

NHO 東埼玉病院 市 川 一 三

学会特別賞・学会学術奨励賞選考委員会は、例年の如く関信支部長から委任された委員により執り行われました。地区会からは群馬地区より沼田病院 青木氏、千葉地区より下総精神医療センター 内野氏、国臨協本部から国立精神神経センター 国仲氏、国臨協関信支部から災害医療センター 吉田氏、選考委員長は委員の互選により関信支部技師長会から東埼玉病院 市川が担当いたしました。8月1日国際医療センターにおいて各委員が参集し、審査についての選考基準を検討致しました。選考基準は、論文が他の学会等に未発表のもの、研究的要素のあるもの、将来性のあるもの等、本賞設立時からの選考基準に照らし合わせる事を確認いたしました。第一次選考として、発表者・施設名を伏せた全抄録から、表彰に値すると思われる演題を複数選出し、ポイントを付与する方法を採用しました。選考委員長は、各委員が評価したポイント上位演題をまとめ、再度各委員に資料配布し二次選考該当演題を絞り込みました。第二次選考では、学会当日の発表態度、抄録の修正の有無、質疑に対する対応等審査採点し、総合審査を行いました。

選考委員会は、学会特別賞1席・学会学術奨励賞1席を選考致しました。

学会特別賞

◎「輸血事故防止への取り組み(血液型確定までのプロセスについて)」

輸血事故防止に向けて徹底した取り組み、臨床側への血液型確定に向けた二回採血の必要性のインフォメーションなど医療安全に取り組む施設の努力が伺える、他施設にも大変参考になる事案と思われ評価致しました。

学会学術奨励賞

◎「デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者における左室拡張能の検討」

超音波検査においてDMD患者の左室拡張能の計測値を統計学的に示し、拡張障害を評価する指標の一つとして考察している。確定的結論にはいたらなかったが、今後さらなる検討を加えオリジナリティーの高い研究になると期待し、評価致しました。

今回は、演題数60題と多数の応募がありました。

部門別に見ますと、輸血3題・細菌6題・生化学・免疫6題・血液6題・病理11題・医療連携3題・生理8題・超音波12題・臨床研究5題全部門にわたってありました。

内容的にも、輸血事故防止・従来の染色方法の工夫・検査基準値の新たな設定・施設独自の抗菌薬感受性一覧表作成・市販ソフト使用し生理検査の効率化・業務環境改善・医療連携の充実をはかるなど、検査業務のためめ前進を促す内容になっておりました。まさに、今学会のテーマ「原点に立ち返り・未来を考える」姿勢がすでに歩まれている印象を感じました。

最後に、選考委員より今回受賞された演題は今学会に止まらないで、学術論文として発展させていただきたい旨を事務局にお願いし、報告とさせていただきます。

学会学術奨励賞を受賞して

NHO新潟病院 玉 井 真 紀



この度、第37回国臨協関信支部学会におきまして学術奨励賞を頂くことができ、大変光栄に思っております。

今回、発表いたしました演題は「デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者における左室拡張能の検討」です。当院ではデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者(DMD患者)は、定期的に心エコーにて心機能の評価しております。心エコーをやり始めてから経験の浅い私は、DMD患者の左室収縮能が年齢と共に低下すること

は知っていましたが、恥ずかしながら拡張能、血行動態についてはあまり理解せずに検査を実施していました。そのような中、中島技師長の「DMD患者は収縮能が悪い割に拡張能が保たれているし、左房は小さいよね。」という言葉から今回の検討は始まりました。

今、学会発表までの道のりを思い出すと、様々な思いが蘇ります。学会発表に消極的であった私に対し、技師長は「大丈夫だ。まとめれば必ず力がつくから頑張れ。」と後押ししてくれました。抄録は拡張能の各指標と血行動態を理解しなければならず四苦八苦でしたが、何とか提出までこぎつけました。スライドは8月より本格的にスタートしましたが、まとめている中で先生より正常コントロールがあった方が、対比ができるのではないかと指摘を受け、締め切り3週間前からルーチンの合間を縫い、正常コントロールのデータ取りをしました。データのまとめ、スライド作りは夜遅くまでかかり、かなりきつかったです。学会前の予演会では、胃が痛くなるほどのプレッシャーを感じつつ、先生方から多くの質問を受けました。質問に対して内容を理解するまで根気よく教えて頂いた中島技師長には感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして学会当日、何とか発表が終わった私に、技師長より「ご苦労さま」の後に「声が小さい!」との駄目出しを受け、気持ちが沈んでいる所へ、思いもよらず学術奨励賞を受賞しました。

私の短い検査技師人生の中で、一、二を争うほどの辛い時期ではありましたが、多くのことを学ぶ良い機会となりました。心エコーについての知識が深まったことはもちろんですが、精神的にも鍛えられ、充実した日々を過ごすことができました。中島技師長をはじめ検査科スタッフ、そして先生方には心より感謝申し上げます。

今後は患者さん、診療側から信頼される技師になれるように日々努力していきたいです。また、学会発表に留まらず、2Dトラッキングの追加検査を実施し、論文投稿したいと考えています。最後に、学会を開催するにあたりご尽力頂いた国臨協関信支部役員および関係の方々に厚くお礼を申し上げます。

学会特別賞を受賞して

NHO東京医療センター 熊 野 寿 世



この度、第37回国臨協関信支部学会、学会特別賞を戴き、今回の発表内容が多くの方々から評価された事を大変嬉しく思っております。学会当日質疑の際、私の応答が不十分ではなかったかという疑念がありましたので、この場をお借りして少し付け足したいと思えます。

今回の取り組みは他院での異型輸血事故をきっかけに、病院全体の問題として捉えたものです。2度に渡る輸血療法委員会での話し合いと、方針決定後の修正やフローチャートの作成など、輸血責任医師を中心に院内各部門の協力のもとに推進してまいりました。質疑にもありましたが、2回採血の推進に対する理解は、当初各部門の様々な事情から順調に得られませんでした。しかし、この件に関しては、看護部より「2回採血は最大の患者サービスである」という認識を得られた事から、多くのスタッフにも理解が広まっていったのだと思われます。取り組み後、血液型検査の検体数が増えたように見てとれます。この事は入院・外来共にこれまで交差適合試験検体と血液型検体を同時採血していたのを、分けて採血するという理解が得られた1つの成果ではないかとも思っています。

この発表を通して感じた事は、異型輸血事故の防止について検査技師だけではなく、病院全体の問題として捉えた事、つまり医療チーム内における単なる役割分担ではないスキルミックスの拡大こそ、医療サービスの向上に繋がるものだという考えでした。現状では法的な問題から制度面での整備が二重に追いついていませんが、今ある環境の中、可能な範囲で独自の取り組みに携わる事ができて、自分自身も新たに知る事もあり、非常に良い経験であったと実感いたしました。

この取り組みの遂行について、院内に2回採血への理解が十分でない時期に、当直業務となった当院検査科スタッフの多大な尽力によって、確実な理解が得られるようになった事は言うまでもありません。

最後に、抄録やスライドの編集、当日会場の運営をされた関信支部役員の皆様に感謝申し上げます。

支部表彰受賞に寄せて



NHO水戸医療センター
堀 口 日出子

この度、第37回国臨協関信支部総会において支部表彰を頂き、ありがとうございました。推薦いただきました茨城地区会、また関信支部長はじめ役員

の皆さま方にお礼を申し上げます。

国立高崎病院に昭和48年採用以来36年間、5回転勤、6施設に勤務。総合病院、ハンセン療養所、重心施設と国立でなくては得られない貴重な経験をさせていただきました。その間、良き上司、良き先輩、良き同僚に恵まれ、あっという間に過ぎた楽しい年月でした。「光陰、矢のごとし」…そんな心情です。

検査をすればするだけの収益があがる検査全盛時代に、生化学検査を担当、テクニコンSMA12/60を受け持っていたのも、懐かしい思い出のひとつです。関信支部との最初の関わりは昭和50年前半の頃の支部学会でした。当時の技師長は、若手の技師に「支部学会に参加し、他施設

の演題を聴講、そして自分で発表するように。支部学会は登壇門だから。」何度もなんども繰り返し話をして下さいました。技師長に背中を押され抄録を作成した当時の記憶が脳裏に浮かびます。

現在はブロックの任用登録試験があり、各大学、専門学校から優秀な人材が集まってきています。当時の採用は試験もなく職員の紹介だけで非常勤職員となり数ヶ月で常勤職員になる人がほとんどでした。私自身、高崎病院に非常勤で入り、僅か2ヶ月でそのまま正職員に採用となりました。今の試験であればとても合格は出来なかったと思います。昭和の時代で幸運でした。

私たち団塊の世代の大量退職と相まって、政権が交代しました。医療を取り巻く環境も「生活習慣病」から「未病」に向けて走り出しています。時代の流れと環境の変化を敏感に察知し、対応できる能力が求められています。私は関信支部から様々な情報を得、多くのことを勉強させて頂きました。心より感謝申し上げます。関信支部のますますのご発展を祈念いたしております。

最後にひと言 …人を育成すること・能力をひきだすこと…関信支部はそんな学術団体です。

支部表彰受賞に寄せて



NHO下志津病院
名 賀 秀 己

第37回国臨協関信支部学会において支部表彰を戴き有難うございました。

平成3年関信支部理事会にて平成4年の第20回関信支部学会を記念学会として行うと理事会で決まり、記念誌作り、学会場探しに奔走し、学会前日は理事全員泊り込み国立病院医療センター内での学会準備とは異なり右往左往・喧々譁々と準備をした良き苦き役員当時が思い出されます。

支部役員のご努力を察します。ご苦労様です。支部役員を4年間務めさせて戴き、多くの会員と知り合う事ができたことが私にとりかけがえのない財産です。

千葉地区会も精度管理委員会廃止、規約改正と大きく変革し、関信支部の下部団体として蜜に支援・協力ができる体制を整え、今回の協賛症例検討会が行えることができました。

今回、症例検討会を千葉地区会と協賛し多くの会員が出席して戴き、千葉地区会代表として御礼申し上げます。今後も各地区会と協賛して活動を続けられることを希望いたします。

私は昭和50年3月に埼玉病院に採用され国立小児病院、国立病院医療センター、国立国際医療センター、国立大蔵病院、国立療養所西群馬病院、国立がんセンター東病院、

NHO下志津病院の1都3県と転勤し、思い出は多々ありますが、特に主任として小児病院へ異動と同時期に生理検査室が新棟へ移り、病棟への出張検査の導線が短くなり、脳波・ABR・心電図の測定装置を引き摺りながら悪戦苦闘し病棟から病棟へと検査を行い、検査室にもどりホットしたところ病棟医師より悪化したので早急に検査をお願いするとの依頼があり、病棟に駆けつけたが間に合わない事例や、心がなかなか開かず、やっと心が通じ、打ち解けた患児が日々容態が悪化し数週間後に旅だったことなど、いまでも強く脳裏に残っております。小児病院勤務の7年間、幼子2人の子育ての真最中であり、大変印象深い施設であります。残念ですが閉院となりました。その後大蔵病院に副技師長として大蔵病院の閉院作業を行いながら国立成育医療センターの立ち上げまで、職域を越え他部門と協力体制を組みながら世界に誇る病院・検査室作りに連日連夜、夜遅くまで作業を行い、素晴らしい施設ができたことと共に、部門を越えた良き仲間を得たことが誇りです。国立病院医療センターと国立療養所中野病院の統合、国立小児病院と国立大蔵病院の統合と2施設の統合施設を経験し変動の時期を経験しましたが、時代はさらに独立行政法人、非公務員型へと著しく変革していますが、これも世の流れです。過去に縛られず関信支部一同、皆様と力を合わせ夢のある医療の世界にしましょう。

次の時代を担う国臨協関信支部役員、会員の皆様の益々のご発展とご活躍を心より祈念して、御礼の言葉とさせていただきます。

支部表彰受賞に寄せて



NHO村山医療センター
中 村 春 木

この度、第37回国臨協関信支部学会において支部表彰をいただき有り難うございました。三浦支部長をはじめ役員、地区会の皆様には厚く御礼申し上げます。

昭和47年4月1日、国立がんセンター中央病院に採用され37年間、8回の転勤を経て9施設にお世話になりました。この間には良き上司、先輩そして同僚にも恵まれ、苦しいこともありました自分にとっては良い経験となり充実した日々を過ごすことができました。

副技師長として5施設、8人の技師長にご指導、ご厚情をいただき感謝の気持ちで一杯です。

支部との最初の関わりは昭和50年の支部学会発表でし

た。フロアーからの質問に少々、的はずれた返答を緊張で口の中をからからに乾かしながら答えたことを懐かしく思い出します。

その後、支部理事として渉外を2年間担当させていただきました。支部行事としての勉強会開催、学会準備、地区会への参加等は勿論ですが、渉外として各施設訪問をさせていただき、施設諸問題のまとめという支部業務の他、その地域の人々、すばらしい文化にも触れることができました。理事達と車に分乗していろいろと出かけたことも思い出され大変、思い出深い経験をさせていただきました。

国立病院から独立行政法人、業績評価と変動の時期を何とか勤務することが出来たことだけで十分な状況の中、このような賞まで頂き関信支部の皆様、役員の皆様には心から感謝いたします。

最後に関信支部の益々のご発展を祈念して御礼の言葉といたします。

支部表彰受賞に寄せて

NHO高崎総合医療センター 霜 田 重 雄
第37回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂き有り難うございました。

推薦して頂いた群馬地区会ならびに関信支部役員の皆様に厚くお礼申し上げます。

昭和50年に国立西埼玉中央病院に採用され、東京、群馬、神奈川と、6回の転勤を経て7施設において34年間良き上司、先輩、同僚、後輩に恵まれ今日を迎えられる事が出来ました事を、皆様に感謝申し上げます。

国立西埼玉中央病院に就職した当時の生化学検査はまだまだ手法が多く、毎日夜8時過ぎまで頑張っていた記憶があります。また、試薬で白衣に穴が開いてボロボロになっていたのが懐かしく思います。群馬県伊香保温泉に一泊しての関信学会も懐かしく思い出されます。

また、支部の理事及び群馬地区会会長を経験させて頂き、会員の皆様の為に微力ながら努めさせて頂きました。

検体検査部門では、旧国立病院間の測定法および基準値

支部表彰受賞に寄せて NHO西群馬病院 岸 悦 子

第37回関信支部学会において支部表彰を頂き、有難うございました。「殆ど貢献することもなかった自分のような者が」と大変恐縮しております。今日まで勤務を続けることができたのは、上司、先輩や同僚、また多くの病院職員の御蔭と心から感謝し、お礼を申し上げます。

振り返ってみますと、多くの思い出、人々との出会い、本当に懐かしく思い起こされます。大変失礼なこと、ご迷惑をおかけしたこと、などなど恥ずかしい事も沢山、思い出されます。この場をお借りしてお詫びしたいと思います。

私は、昭和46年8月2日国立高崎病院に採用され27年間在職、その後西群馬病院へ配置換えとなりました。採用当時は開業医の保険医辞退で外来が非常に混雑していた記憶があります。元専門官の下杉先生が業務援助にお見えになったのもその頃で、色々教えて頂きました。また先生を

の共有化が進んでおりますが、治験・病診連携を考えるとやはり旧国立病院間だけでなく、各自治体及び全国レベルでの共有化が必要であります。大変な作業という事でまだ結果は出ていないようです。早急に結論を出さなければいけないと考えます。

また、スペシャリストの育成及び、各種認定技師養成の為に研修会をブロック本部・支部及び地区会等で開催し、多くの会員が参加し数多くのスペシャリスト・認定技師が誕生しております。特に超音波検査に対する関心の高さは改めて驚かされます。細胞検査士に関しては団塊世代の大量退職が始まっています。これからは若い人たちのますますのご活躍を望んでいます。

臨床検査技師は検査のスペシャリストです。医師・看護師等に指導出来る素晴らしい臨床検査技師が数多く誕生する事を願っております。

最後に国臨協関信支部役員、会員の皆様のご健康と益々のご発展とご活躍を心より祈念して、お礼の言葉とさせて頂きます。

交え妙義山へドライブに行ったことが懐かしく思い出されます。結婚、出産、育児と子育てをしながらの勤務でしたが、幸い、高崎病院には院内保育所がありましたので、大変助かりました。検査科の皆さんには本当にお世話になりました。平成9年の秋、検査科を改革するための準備として、主任全員が他施設を見学する機会がありました。県内の施設しか知らなかった私には大変印象深く、勉強になり、有難い経験をさせて頂いたと思っております。西群馬病院では、結核菌の液体培養法の導入、病院機能評価の受審、オーダリングなど経験させて頂きました。検査技術の進歩は目覚しく、就職当時を思い起こすと夢のようです。「患者さんと共にが基本」の気持ち忘れず、残された日々をしっかりと勤めたいと思っております。

とりとめもない文章となりましたが、終わりに、会員皆様の益々の御発展と健康をお祈り致します。

検体検査セミナーを終えて NHO村山医療センター 菊 池 寿美子

平成21年9月5日(土)国臨協関信支部学会において「検体検査セミナー：検体検査の現状と展望」が開催され、1時間10分の時間枠で、1.生化学・血清検査の現状と展望：小関 満(国立がんセンター中央病院)、2.一般検査の現状と展望：長田健児(国立国際医療センター戸山病院)、3.血液検査の現状と展望：熊澤寛子(国立がんセンター中央病院)、4.遺伝子検査の現状と展望：柿島裕樹(国立成育医療センター)(敬称略)を講演して頂きました。本セミナーの主題は臨床検査の原点である「検体検査」の重要性を再確認することであり、司会進行役としては限られた時間枠を考慮して、ポイントを絞った内容とするために、講師の方には事前に「日常検査で遭遇する異常データ」についての事例紹介を是非して下さいとお願ひしました。これら意向を汲んで頂き、当日は「日常検査で遭遇する異常データ」についての事例紹介の他に、異常データの管理と対処法、精度管理、日常検査でのチェックポイントなど、業務に役立つ実践的な講演内容となりました。遺伝子検査は高度先進的検査の要素が強く、院内検査で実施している施設は限られているのが現状ですので、遺伝子検査の実施状況と問題点などを中心に講演して頂きました。どの講演

も14分の枠では語り尽くせるはずのない内容で、各スライドは貴重な情報満載で「そのところ、もっと聞きたい!」と思ったのは私だけだったでしょうか。

検体検査(生化学・血清・一般・血液)は、日常診療の中で患者さんの病態把握に必要不可欠であり、検査項目によっては治療や診断に直結しています。日常検査データを読み抜く力を身に付けることが病態を知ることに繋がり、データの特異な動きから稀な症例を検査室が「発見」することも出来ます。特に異常データに遭遇した場合、分析装置・試薬・分析法など検査室内に原因があるのか?治療上の薬剤による影響なのか?検体採取に関わるものなのか?などエラーデータとの鑑別が重要となり、これら分析結果を踏まえた医師への情報提供は検査技師の重要な役割です。病院の検体検査担当の検査技師が単に機器の操作と結果報告に終わらずに、これら能力を発揮する時、検体検査室のモチベーションは確実に向上きにギアチェンジしています。

今回の検体検査セミナーがこれら再確認の一助となれば幸いです。最後に、講師の先生方ならびにこのような検体検査セミナーを企画して頂いた関信支部役員の方々に心より感謝致します。

チーム医療セミナー NHO水戸医療センター 岩 崎 康 治

「チーム医療」は各施設で様々な取り組みがなされている中で、その関わり方を模索しているのが現状ではないかと思ひます。

今回、「チーム医療における検査技師の役割」と題して成育医療センター渡辺主任、下志津病院小池主任、国際医療センター戸山病院和田主任、長野病院松井主任、4名の講師の方に感染制御チーム(ICT)、栄養サポートチーム(NST)、治験コーディネーター(CRC)および糖尿病療養指導とそれぞれ立場から、臨床検査技師のチームに対する関わり方ならびに役割について講演をお願いいたしました。

それぞれ専門性に違いはあっても共通することは、チーム内の専門知識を習得、理解し協働で患者に対し医療を提供していくことではないかと感じました。

そして、臨床検査技師としてチームならびに患者に提供する検査データや医療機器の精度管理が大切であることが示されました。

業務拡大、チーム医療への参画と謳われてはいますが、担当者だけが一生懸命になってもいけません。チーム医療参画の根幹でもある検査科(部)内の協力も大切であると感じました。

また、これも共通した意見でありましたが、人材育成も大切なことであります。自施設だけでなく次を担う人材を多く育成することが、多くの施設でチーム医療に参画することが出来るのではないかと感じます。

今回は、時間的制限もあり4部門の方の講演に終わりましたが、特別講演の櫻林先生が推進されている「未病医学」、「健診」さらには、一般演題のテーマにもあった「災害医療」など臨床検査技師は、あらゆる部門で関わる事が出来るのではないかと思います。

会員の皆様におかれましては、今回のセミナーが各施設の様々なチームに少しでも参考になれば幸いです。

最後に、講演いただいた講師の方々と、セミナーを企画していただいた関信支部役員の方々に心より感謝申し上げます。

新病院の開院を迎えて

NHO高崎総合医療センター 筑 井 とよ美

新病院の早期完成に向けて…、新病院が完成したら…。省みますと5年ほど前より始まっていました。が、現実には受け止められず私たちには遠い将来の出来事ではありませんでした。そのうちに新棟の建物のデザインや名称についてのアンケートがあり、我々も一緒になって新病院を立ちあげていくことを自覚せざるを得ません。

前副技師長を中心に、新しい検査室の設計をし、イメージを膨らませ皆の気持ちも盛り上がってきました。また開院と同時に、電子カルテの導入、今まで伝票運用の病理、細菌、生理、輸血のオーダーリング開始、それに伴い検査システムの変更。輸血検査機器とシステムの導入。本当に一度に全て、うまくやっていけるのだろうか？やるしかありません。各部門単位でのワーキング（各部門に関係のある医師や看護師長も参加）にも力が入ります。

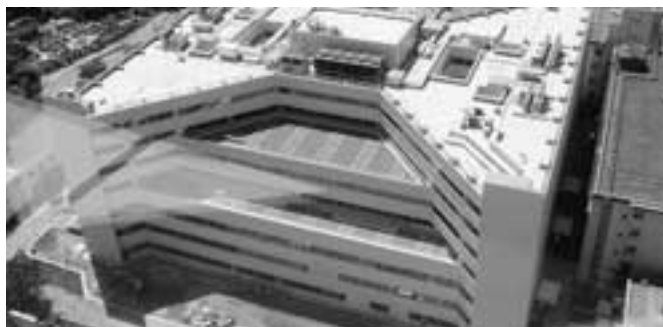
（その後病理、細菌、輸血のオーダーリングが3週間後になり、電子カルテ運用は12月に延期と言う情報が入り、少しはっとしました。）

いよいよ専門業者による引越しの日程が決まりました。ルーチン検査を行いながらの引越しなので、最初に検査に支障のない物の引越し。その2週間後には全ての物の引越しです。そしてその2日後には、予約患者の人数制限は設けてあるものの、診療が始まります。

入院患者の新棟への移動などで2日間の休診があり、その間に分析器等の移動をし、各メーカーの方々に早朝から夜遅くまでお世話になりました。そして我々も、ルーチン検査が終わってから荷作りした荷物などを新棟へ運び、片付け。そして診療開始です。研修をして十分画面に慣れたつもりでも、ちょっとした事で診療側にデータが送られなかったり、また診療側の意向が反映されなかったりと、最初の1週間は手直しをしたりして緊張の日々でした。2週間後には、病理、細菌、輸血のオーダーリングもスタートします。

仕事の動線もままならず、物の置いてある場所もまだ覚えられず、病院の中で迷う事もありますが、新しいのはとても気持ちいいです。

このような経験が出来たことは大変幸運だったと思っています。地域の中核となる病院のスタッフの一員として、住民の皆様に信頼される様に努力したいと思います。



研修会のお知らせ

第2回国臨協関信支部主催研修会(一般検査)

開催日時：平成21年11月21日 14:00～17:00

場 所：国立がんセンター中央病院
管理棟1階 第1会議室

講 師：東京大学医学部附属病院
検査部 第三部門一般検査室
宿 谷 賢 一 先生

内 容：「尿沈渣鑑別のポイント」

人 / 事 / 異 / 動

【平成21年8月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
西 海 弘 子	霞ヶ浦医療センター	技師(採用)	国際医療センター戸山病院	(非常勤)技師

【平成21年7月31日付 辞職者】

氏 名	施 設 名	役職名	職
新 井 渚	霞ヶ浦医療センター	技 師	辞 職

【平成21年10月1日付 異動者】

氏 名	新施設名	役職名	旧施設名	役職名
神宮司 深 雪	成育医療センター	技 師	東埼玉病院	技 師

編集後記

平成21年度が始まり、すでに2ヶ月が過ぎました。第37回の定期総会において、会期見直しの議案を会員皆様のご協力をいただき成立させることができました。そのため、今年度の会期は過渡期ということから8ヶ月という短さです。支部ニュースにおいてはこの間に3回を発行する予定となっています。

さて、支部学会の受付時にアンケート用紙を配布しているのですが、このことに何人の方がお気付きになっているのでしょうか。第37回の支部学会は参加者364名でしたが、解答していただいた方は35名でした。回収率が低い参考にはあまりならないかもしれませんが、ここに主な質問と集計結果を報告します。

「①今回支部学会の企画運営はどうですか：良い74%、普通23%」「②開催時期は今のままで良いですか：良い74%、変えて欲しい26%」「③開催場所は国際医療センター戸山病院のままで良いですか：良い94%、良くない0%」「⑥支部ホームページの内容やデザインをどう思いますか：とても

良い17%、良い54%、良くない6%、わからない23%」「⑦支部ニュースの内容・読みやすさ・紙質についてどう思いますか：とても良い26%、良い57%、良くない0%、わからない14%」「⑧支部の活動についてどう思いますか：とても良い23%、良い63%、良くない0%、わからない14%」「⑩支部の役員を経験したいと思いますか：思う3%、少し思う23%、思わない74%」その他の意見として「いつも学会運営などご苦労される事が多いと思います。支部会員が一同に会するこの学会で色々な方との出会いもありとても良い学会だと思います。」「第1会場のイスが少なく、すわれなかったで、多めに出演していただけたとありがたいです。講演が多く、お昼を取りにくかったので、もう少し時間に余裕があるとありがたいです。」などの意見がありました。今後の参考にしていきたいと思っています。

支部ニュースについても会員皆様にとって有益な情報紙となるように工夫していきたいと考えていますので、そのためのご批判、ご意見などをお聞かせ下さい。お待ちしております。
(広報部：峰岸正明)

地区会だより

栃木地区研修会に参加して

NHO 宇都宮病院 小 川 佳 亮

平成21年6月18日(木) 栃木地区会主催の第一回研修会「結核院内感染対策とクオんティフェロン」が宇都宮病院にて開催されました。

クオんティフェロンはツベルクリン反応に変わる新しい検査法として結核感染の診断、非定型抗酸菌症との鑑別、職員の感染管理など幅広く実施されている検査です。

従来、結核感染の診断は、皮内反応によるツベルクリン反応が広く普及していましたが、ツベルクリン反応では、BCG接種者においてBCGによるものか結核感染による反応か区別できないなどの問題がありました。

クオんティフェロンはBCG 接種の影響を受けないこと、結核感染の有無や発病の早期発見、早期治療が可能になったこと、接触者健診スクリーニング検査による感染拡大防止に有用であることなど解りやすく説明していただき多くの知識を得ることが出来ました。

今回の研修会は、結核院内感染対策の内容等も盛り込まれていたため、当院職員の方々にも関心が高く検査技師だけではなく、看護師等の参加も数多く見られました。

これからも、このような勉強会を開催し、検査技師はもちろん、院内スタッフの方々にも参加していただき、交流や知識を深め合っていきたいと思います。



平成21年度第28回国臨協関信支部 千葉地区会定期総会・研修会を終えて

国立国際医療センター国府台病院 田 島 秀 昭

平成21年7月4日(土)、四街道市文化センターの会議室において、平成21年度第28回国臨協関信支部千葉地区会定期総会・研修会が開催されました。

当日は関信ブロックより永井正樹臨床検査専門職、関信支部より三浦隆雄支部長、吉田和浩副支部長のご出席をいただき、会員多数の中下記の内容で行われました。

1. 研修会

「基礎的な不規則抗体検査方法と陽性時の対処方法」

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社

小杉光明 氏

2. 伝達講習会

国立病院機構関東信越ブロック事務所統括部医療課

永井正樹臨床検査専門職

3. 総 会

始めに、不規則抗体検査の留意点と検査の進め方等についての研修会が行われ、基礎的操作手技、学術的知見などを普段輸血業務に携わっていない技師にもわかりやすく講義を行っていただきました。何気なく検査し判定していることでも、注意すべきピットホールを充分理解して検査にあたる事が検査精度管理の向上と医療事故防止につながる事を再認識でき、大変勉強になりました。

その後、永井専門職から 1) 試薬の共同購入について 2) 人事異動について 3) 登録選考試験について 4) 認定資格について 5) 各種研修会についてなど内容の濃い講演を行っていただきました。国立病院の検査技師として「今」成すべきこと、そして「未来」のために日々自己研鑽していくことを示唆していただき、講演後は身が引き締まる思いでした。

国臨協栃木地区会レクリエーションに参加して

NHO 栃木病院 小 池 麻友美

平成21年6月20日、栃木県日光市(旧今市市)にある太子食品工業日光工場にて栃木地区レクリエーションが開催されました。2施設合わせて22名の参加でした。

施設に入り、日光工場の概要、大豆に対するこだわりのビデオを見させて頂きました。太子食品では衛生面からオカラは一般への販売は行わず、家畜の餌として卸しているそうですが、そこにも細心の注意をしている様です。また、大谷川(だいやがわ)を水源とし、浄化処理施設による水の自然還元への取り組みなど、環境を考えるとともに大豆に対する情熱が伝わってきました。

豆腐作り体験では、無調整豆乳ににがり混ぜ、電子レンジで加熱するだけで、豆の味の濃い豆腐が出来ました。私の豆腐はにがりを入れすぎてしまい少し苦かったですが、ちょうど良く出来ている人、やわらかそうに出来た人など、それぞれ違う味の豆腐を作ることが出来ました。

電子レンジで加熱中は冷やっこ、寄せ豆腐、ごま豆腐、生ゆば、油揚げ、こんにゃく、豆乳レアチーズムースなど、売られているものから工場試食限定のものまで試食させていただきました。最後に豆乳レアチーズムースの作り方を担当者の方が青森弁を混ぜながら教えてくださり、たくさんの方がメモを取っていました。

工場はガラス越しに見学することができ、機械化・従業員の衛生管理から食品の安全衛生に対するシステムを見ることが出来ました。特に視線を集めたのが製品・豆乳中の細菌を検査する検査室でした。

工場見学後参加者全員で記念写真を撮り、直売コーナーで各自お土産を買い、楽しい一時を過ごすことが出来ました。

今回のレクリエーションでは豆腐作り、工場見学という貴重な体験が出来たとともに、栃木地区会の皆さんとの親睦を深め合うことが出来たことを嬉しく思います。

最後に千葉地区会総会が行われ、平成20年度事業経過報告・会計報告・会計監査報告、平成21年度事業方針案等の議案が会員の協力のもと審議決議されました。

総会終了後には居酒屋「村さ来」にて盛大に懇親会が行われ、会員相互の親睦を深め、総会・研修会は終了となりました。

総会をもって平成20年度の理事は解任となりましたが、名賀会長を始め役員の皆様お疲れ様でした。またお忙しい中、講演を行っていただきました永井専門職、ご出席いただきました三浦支部長、吉田副支部長に厚くお礼申し上げます。

平成21年度 千葉地区会役員名簿

会 長	内野 厳治 (下総精神医療センター)
副 会 長	土井 誠一 (千葉東病院)
理 事	飯田 好江 (がんセンター東病院)
理 事	原田 崇浩 (千葉医療センター)
理 事	高橋 理誉 (下志津病院)
理 事	田島 秀昭 (国際医療センター国府台病院)
会計監査	海原 桂一 (下志津病院)
会計監査	土志田 健 (千葉医療センター)
役員推薦委員	
委 員 長	大貫 經一 (国際医療センター国府台病院)
委 員	藤澤 紀良 (千葉東病院)

